

第2回 新潟市新津健康センター・新潟市新津育ちの森指定管理者申請者評価会議  
議事録

日 時：令和3年10月21日（木）午後2時～

場 所：新津健康センター2階 はつらつホール

委 員：伊藤 満敏（新潟薬科大学 学長特別補佐）

大野 寛之（大野公認会計士事務所 公認会計士）

小池 由佳（新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授）

高橋 直人（秋葉区社会福祉協議会 事務局長）

中野 妙（金津コミュニティ振興協議会 副会長）

本間 武（ちとせ社会保険労務士事務所 社会保険労務士）

事務局：秋葉区健康福祉課

傍聴者：9名

発言者	発言内容
司会	<p>【開会】</p> <p>定刻となりましたので、これより新潟市秋葉区新津健康センター・新潟市新津育ちの森指定管理者申請者評価会議を開催します。本日司会を務めます、秋葉区健康福祉課の新井田と申します。本日は、よろしくお願いいたします。まず、本日の会議開催にあたり、秋葉区健康福祉課長の明間より一言ご挨拶申し上げます。</p>
明間秋葉区健康福祉課長	<p>皆さま本日はありがとうございます。健康福祉課長の明間でございます。本日は、お忙しい中、参加していただきありがとうございます。今日は第2回の評価会議ということで、秋葉区で初めての複合施設ということで、健康センターと育ちの森を一体とした指定管理者の候補者選定のプレゼン、ヒアリングを進めさせていただきたいと思います。皆様方それぞれの専門の分野から見ていただいて、しっかり評価していただいて、来年度からの指定管理候補者の選定を行っていきたいと思いますので、どうぞご協力をお願いいたします。</p>
司会	<p>なお、本日の会議につきましては、会議録作成の都合上、録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。会議録につきましては、ヒアリング終了までの部分については公開し、採点、意見交換の非公開部分については公開しないこととなります。また、午後2時か</p>

	<p>らのプレゼンテーション・ヒアリングの間は傍聴者を上限 10 人で受け入れます。</p> <p>それでは、まず、資料の確認をさせていただきます。事前配布しました資料として指定申請書ファイル 2 者分、事業計画書ファイル 2 者分、評価シート、指定管理申請者の評価方法、第 2 回評価会議プレゼンテーション及びヒアリングの実施について、となります。また、本日机上に次第、第 2 回評価会議スケジュール、プレゼンテーション・ヒアリングの実施について、A3 メモ用紙を配布しています。以上となりますが、不足等ありますでしょうか。</p> <p>それでは、本日の進行について事務局より説明させていただきます。</p>
事務局	<p>本日の進行について山田の方から説明させていただきます。お手元の第 2 回スケジュールをご覧ください。本日ですが、13:55 に 1 者目の方より入室いただき、14 時より 20 分間プレゼンテーションを行っていただきます。終了後、委員の皆様からヒアリングをしていただきます。ヒアリングは挙手された委員の方に事務局が指名をします。それぞれ終了 3 分前に 1 回、1 分前に 2 回ベルで合図をします。終了後、皆さんから採点していただき、14:40 分より 2 者目の入室となります。2 者のヒアリング終了後、申請者、傍聴者の方より退室いただきます。その後、委員の皆さんから採点していただき、採点終了後、委員間で意見交換を行い、その後、最終採点を行っていただきます。最終的な評価結果を事務局にて集計し、委員の皆様配布します。候補者選定につきましては、本日いただいた意見、評価結果を参考に、市として指定管理候補者を選定し、選定しましたら、皆様にも結果をお伝えさせていただきます。</p>
司会	<p>ただいまの説明に関して、皆様からご質問等ありますでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>それではプレゼンテーション・ヒアリングを開始したいと思いますので、1 者目の申請者の入室をお願いします。その後、傍聴者の入室もお願いします。</p> <p>【公開プレゼンテーション・ヒアリング】</p> <p>(申請者：育ちの森・健康センターすこやかサポーターズ)</p>
申請者	<p>育ちの森・健康センターすこやかサポーターズです。本日は貴重なお時間を</p>

いただき誠にありがとうございます。では、これより事業計画書につきまして若干の補足説明をさせていただきます。私たち育ちの森・健康センターすこやかサポーターズは類似施設を含め県内27施設にて指定管理者施設を持つ、環境をサポートする株式会社きらめきと、平成18年度より育ちの森の指定管理者であるNPO法人ヒューマンエイド二十二による共同企業体です。それぞれが持つ豊富な実績やノウハウを活かすべく、主にはきらめきが新津健康センターを、ヒューマンエイド二十二が育ちの森を担当いたします。最初に新津健康センターの基本方針を補足説明いたします。きらめきでは、新津健康センターの管理運営にあたり、以下の3点を経営理念とした事業を展開いたします。①安全・安心・快適な環境の提供②地域世代間交流③施設を通しての社会貢献です。最初に安全・安心・快適な環境の提供についてですが、まず、健康センターの主要施設である浴室、浴槽のレジオネラ菌対策を行います。豊富な入浴施設管理実績に基づき、条例基準以上の当社独自対策を行います。特に検査頻度を上げることにより、早期に異常値の発見に努めます。加えて、新型コロナウイルス他、感染症対策を講じます。当社で長年受託しております新潟大学医歯学総合病院衛生環境業務の衛生管理スキルを応用した清掃、マニュアル、研修によるワンランク上の衛生管理を行います。そして、日々の安全管理についてですが、健康センター職員を17時までは、仕様書以上の常時男性1名、女性1名の計2名を配置いたします。理由としては、入浴施設で不測の事態があった場合、柔軟に対応できること、育ちの森が女性スタッフのみとなるなど、必要に応じて男性が応援に入れるようにするためです。その他に、高齢者の利用を想定したシニアサポートを実施することにより、高齢者利用促進と、緊急連絡の登録推進を行います。続いて、地域世代間交流についてですが、施設の設置目的に沿った自主事業を年10回以上開催します。まずは健康教室やセミナーを開催します。さらに、稼働が下がる冬場の底上げ策として、冬の感謝祭月間を開催します。市民の作品展や子どもたち対象の工作や料理教室、さらにアンケート回収強化月間として、抽選、粗品付きアンケートを実施し、お客様の声を集中的に回収します。その他、栄養指導室の活用を促進するため、包丁研ぎや男性のための料理教室、家庭で余っている賞味期限切れ間近の食材を使ったサルベージ・パーティ等を実施いたします。続いて、施設を通じた社会

貢献についてですが、他の指定管理者施設同様、障がい者や引きこもりの方々への就労支援活動として、清掃作業講習会のジョブトレーニング会場として使用させていただきたいと考えています。また、家庭や事業所にある遊休品の利活用としてフードドライブ事業を行い、食ロス問題や食糧支援事業の一助といたします。さらに、防災への取り組みとして防災デイキャンプの実施や AED 講師の派遣を通して、地域との連携を強化します。最後に利用者数及び稼働率アップについてですが、一般的な広報業務以外に、タブレット端末を活用した亀田市民会館との連携として、お互いの利用状況を共有し、必要に応じて相手先を紹介することで、利用拡大につなげます。また、広域からの利用が格段に拡大するインターネット公共予約システムの将来的な導入に向けて所管課と協議します。以上、新津健康センターの補足説明とさせていただきます。NPO 法人ヒューマンエイド二十二 代表の椎谷です。副代表の樋口です。よろしくお願いいたします。それでは座って説明をさせていただきます。まずは経営理念のほうから説明をいたします。子どもたちが安心でき、安全な環境の中で愛情と知識をもって育ち、親もまた子育てを通して充実感を感じ、子どもへの愛情がはぐくまれ、家族としての幸福感が得られるよう、子育て支援の法人として、地域・団体・行政と連携し運営していきます。続きまして、管理運営の A 基本方針といたしまして、①親子が、安心して安全に楽しめ、交流できる、遊びの広場を提供いたします。遊びの広場では、安心して安全に遊べるようなスペース作りを心がけます。ねんねの赤ちゃんから小学生までが、安心して楽しめるような環境を整えます。おもちゃインストラクターが手作りおもちゃの遊びを提供します。毎日、午前午後、絵本読み聞かせと、ふれあいあそびを行います。発達や利用者のニーズに沿ったセミナー、サロンを開催いたします。その他、わらべうた、フラダンス等、親子で参加できる体操や遊びを提供いたします。父親支援としてパパサロン、パパと遊ぼうを遊びの広場の一環として実施いたします。育ちの森利用促進につなげる季節を感じる行事を実施いたします。子どもの日、七夕、ハロウィン等の行事を実施いたしますが、行事への参加が利用へのキッカケになり、親子で気分転換や楽しめる内容となるよう企画いたします。来館者からは毎年、楽しかった、気分転換になった、子どもが喜ぶ表情を見てまた来ようと思った等の感想が聞かれ、その後の利用促

進につながると考えています。その他に、初めて育ちの森を利用する方が来館しやすいように、資料の9ページにありますように、ようこそ部屋、乳児が安心して過ごせるねんねの部屋、子どもの年齢に応じた学年別限定日を設けます。初めての利用者同士が交流し、同じような月齢、年齢の子どもを持つ親同士が共に過ごすことで、利用継続のキッカケになり、行事などの参加ではなく、日常的に利用できるよう働きかけていきます。気軽に参加できる、セミナー・サロンを遊びの広場の中で開催いたします。離乳食サロン、幼児食サロン等のサロンの他、手作りおもちゃセミナー等を実施いたします。日々の関わりの中で、保護者からの要望、相談内容の多いテーマ等を取り上げ、専門職や行政と連携し開催いたします。続きまして、基本方針の②相談しやすい環境を作ります。相談には随時対応いたします。必要に応じて個室での対応を行い、プライバシーを守ります。専門機関・保健師・女性相談員等の相談体制を整え、連携いたします。来館相談の他、電話、メール、予約相談にも対応いたします。園児、小学生も利用することになることから、遊びの広場の中で、子どもの話しに耳を傾け、困っていること等を一緒に考える時間を持ちます。相談終了時には、相談を記録し、区健康福祉課と情報を共有し、必要な支援を検討していきます。孤立した子育てや不安を感じる親が虐待に進まないよう、話しやすい雰囲気づくりを心掛け、対応していきます。育ちの森で行っている相談結果の集計から、グラフの方をご覧ください。相談件数は毎年一千件を超えています。相談方法は館内での相談が66%と高く、続いて個室の面談が17%です。このデータからも、日常の関わりの中で、相談しやすい環境づくり、寄り添うことの重要性を感じています。相談回数は1回が一番多く、全体の50%を占めておりますが、4回以上の相談が26%と全体の4分の1を占めています。継続した支援が必要な事例が増えてきています。続きまして、相談の年齢比率ですが、0歳児の相談が全体の30%程を占め、子どもの年齢の中では一番高い数値を示しています。保護者自身の相談も多く、初めての子育てに不安を持つ保護者が多いことが読み取れます。話せる人がいない、子育てに不安を感じるという相談を聞かれることから、保護者の不安の軽減を図れるよう、相談対応を行うと同時に、セミナー・サロンで、情報で、同じようなことで悩んでいる保護者同士が気持ちを共有できる場を設け、関わっていきます。こちらは

2020年の相談の集計データなんですけども、お子さんの年齢はやはり0歳児が一番多いです。保護者の相談も増えてきております。このデータからも妊娠期から子育て支援が必要であり、担当課、助産師と共に連携した支援が必要と考えています。続いて情報発信です。子育てに関する情報を館内掲示し、各機関、各施設と連携して情報発信をしていきます。こちらに掲げている情報発信の他に、市民、地域の方に周知を図るため、テレビ、ラジオ、新聞等を活用し、発信していきます。また、20年間発行してきました、季刊情報誌ここからで取り上げました子育てに関する情報を施設や利用者からの相談、要望に応じて随時選択し、HPに載せ、情報発信を行っていきます。基本方針の④です。一時預かり事業を実施いたします。リフレッシュや病院の受診等、理由を問わずに気軽に利用できる保育を実施いたします。安心して遊べる環境を整え、資格を持つ保育者が保育します。子どもの人数、状況に応じて、スタッフを配置いたします。保育カルテを使用し、利用者と育ちの森双方で情報共有をしていきます。料金、利用時間、最大利用時間、対象については、こちらの表をご覧ください。続きまして、妊娠期からのプレママ・プレパパ支援を実施いたします。秋葉区健康福祉課と連携し、出産後の利用につなげるよう、助産師とも連携し、マタニティセミナーを開催いたします。人形を使用したタッチケアを体験し、出産後の赤ちゃんとのふれあい体験を実施いたします。育ちの森を利用している先輩パパ、ママから出産時の話や妊娠時の話を聞く機会を設けます。赤ちゃんに触れる機会が少なくなっている現代の状況から、育ちの森を利用している保護者とベビに触れる機会を設けます。実際に赤ちゃんが泣く様子、笑う様子等も体験できる機会にしていきたいと思っております。そして、誕生してから生後10か月くらいまでの赤ちゃんとの保護者が交流できる場を設けることを情報としてお伝えします。困ったり悩んだりしたら来れる場所であるということを出産前から情報としてお伝えします。続きまして、子育て支援講座の開催です。ベビママセミナーを開催いたします。誰も子育て支援に力を入れています。3か月から5か月の赤ちゃんとの保護者が参加するセミナーです。ふれあい遊び、助産師と話そう、タッチケア、交流等を実施して、3回のシリーズのセミナーになります。続いて、NPプログラム。1歳から5歳までの子どもを育てる親を支援するためのカナダ生まれのプログラムです。そし

て、親子で触れあうタッチケアセミナー、子育てハッピーセミナー、大人や子どもの自己肯定感を高めるセミナーも実施いたします。これらのセミナーは今現在も実施しておりますが、参加者からのアンケートでは、親子で外出するきっかけになった、同じような月齢の赤ちゃんを持つ親同士で話す機会を持てた、ママ友が出来た等の声が聞かれ、好評を得ているセミナーです。NP からの参加者からも、辛いと感じているのは自分だけではなかった、参加し、現在もグループを立ち上げ、皆で話し合う機会を設けているという声も聞かれます。続きまして、地域と連携した事業を実施いたします。健康センターで活動している団体と交流いたします。多世代で触れ合う機会を設けていきます。地域の子育てに向けて、子育て支援センター、団体と連携し、支援者研修を計画、実施いたします。多世代の方々が交流できる場として、手作りボランティアの活動を計画して、実施していきます。手作りボランティアは、子どもが楽しめるおもちゃや、イベント時の装飾など、やりがいを持ち、ボランティア同士交流しながら活動できるようにしていきます。続きまして、地域の方が参加できる、地域と連携した自主事業を実施いたします。伝承遊びや、多世代交流、多世代で楽しむ絵手紙講座など、様々な講座を企画しております。実施するのみに留まらず、絵本の読み聞かせ講座の終了時には、育ちの森の絵本を読む時間に試し読み体験をし、伝承遊びでは、実際に夏休み等で、小学生、園児と交流を持ち、楽しめる機会を持ちます。市民が健康センター、育ちの森を知る機会、活用する機会になることで、利用促進につながり、利用者の増加を目的として、実施いたします。最後に法人としての説明をいたします。NPO 法人ヒューマンエイド二十二是、事業協力の体制を強化いたします。育ちの森アドバイザーや育ちの森事業体が事業運営の協力をします。セミナー、講座、地域との連携など、NPO 法人ならではのネットワークを活用し、運営をサポートします。オープン当初から育ちの森で様々な親子と出会い、子育て環境や社会の変化の中で、利用者のニーズに沿った内容を検討しながら運営してきました。移転先の新しい育ちの森は、対象年齢も広がり、多様化するニーズに対応できる体制を整えます。保育士、幼稚園教諭、放課後児童クラブ経験者が中心となり、企画、運営を行います。また、毎年実施している、利用者 150 人対象の利用者アンケートや、施設全体の満足度が満足、やや満足で毎年 90%以上の高評価を

	<p>得ています。職員1人1人が親身に親子に向き合い、寄り添った結果が表れていると感じています。職員がより良い支援ができ、働きやすい環境にしていくことが、法人としての重要な役割だと考えています。子育て支援の法人として、地域・団体・行政と連携し、地域子育て支援拠点、施設としての役割を果たしていきます。施設が市民にとって利用しやすく、多世代が足を運べ、利用の促進が図れる施設運営が出来るよう、協力体制を整え、運営をしていきます。地域に根差した施設を目指します。以上で、育ちの森・健康センターすこやかサポーターズのプレゼンテーションを終わります。ご清聴いただきましてありがとうございました。</p>
司会	<p>ありがとうございました。続きまして、ヒアリングを行いたいと思います。</p> <p>【ヒアリング】</p>
伊藤委員	<p>大変ご丁寧に分かりやすく説明ありがとうございました。私の方から説明された内容プラス、適正な運営をしていただくということで、管理経費の削減とか色んなところが今後、評価の対象になると思うが、事前に提出いただいた事業計画書の14ページに、管理経費削減の取組として、プロパティマネージャーを中心としたコスト削減が明記されている。このプロパティマネージャーは施設管理責任者という意味で捉えてよろしいのでしょうか。</p>
申請者	<p>プロパティマネージャーの一番わかりやすいイメージで言いますと、設備関連の責任者。なおかつエネルギー管理の責任者というイメージで捉えていただくのが正しいかと思います。これは委員の説明と少し異なるかもしれませんが、実は、私たちは亀田の市民会館と福寿荘を管理しております、非常に類似施設です。過去の光熱水費を見た時に、新津健康センターと亀田市民会館を比べると、延床面積が56%しかないが、健康センターの3年間平均の光熱水費が930万円、亀田市民会館が1,190万円くらいで、延床が56%で78%くらいの光熱水費を使っている計算になる。もちろん色々な所を検証したわけではないが。</p>
伊藤委員	<p>18ページに施設責任者として館長を常勤させるとありますけども、館長がプロパティマネージャーになるということではないということか。</p>
申請者	<p>ないです。</p>
伊藤委員	<p>プロパティマネージャーというのは、その下に非常勤と記載があるが、非常勤の方を施設管理責任者とし、全ての経費の方向性等を判断させるという</p>

申請者	意味でよろしいでしょうか。
伊藤委員	そうです
申請者	非常勤ということで、普段はこの施設にいないんですよね。
伊藤委員	いないです。
申請者	実態は把握できるのでしょうか
伊藤委員	はい。どこの施設もそういった形で当社の方ではやらさせていただいてお
伊藤委員	りまして、今のところ支障をきたしているということは全くありません。
伊藤委員	責任ある、経営ある効率的な経営というのを考えると、私は常にいつもいる
伊藤委員	方がしっかりと把握して見られているところの感覚がよろしいんじゃない
伊藤委員	のかなと、つい思ってしまったので質問をさせていただいた。
小池委員	私の方から3点聞かせてください。主に育ちの森のほうになると思いますが
小池委員	がお願いします。1点目、秋葉区で約15年近く活動されてきたと思いますが
小池委員	、その中で見えてきた法人と地域のつながりということについて1点聞
小池委員	かせてください。2点目、先ほど報告がございました相談の中で、非常に保
小池委員	護者の不安が非常に高いというご報告があったんですが、その背景につ
小池委員	いて感じておられること、どのようなことがあってその不安がそれだけ高い
小池委員	のかということ、どう認識されているかということについて聞かせてく
小池委員	ださい。3点目、資料の20ページ、管理運営組織図の中で、先ほども少し
小池委員	お話がありましたが、育ちの森アドバイザーと育ちの森サポート事業体と
小池委員	いうのが書かれております。ここについてもう少し詳しくお話を伺いたい
小池委員	と思います。
申請者	法人と地域の関わりということで、法人の設立当初から秋葉区内に留まら
申請者	ず新潟市内の子育て支援団体、または支援センター等で支援者研修を行っ
申請者	てきたというところがあります。そして、育ちの森が地域の方が活動できる
申請者	ボランティアの活動を推進しています。その中で、地域の方が、例えば手作
申請者	りおもちゃを作って子どもたちを喜ばせてあげたいのだという申し出によ
申請者	って、手作りおもちゃのボランティアが活動できる場を設けてきた。あと
申請者	は、花壇を綺麗にして子どもたちを喜ばせたいという花壇ボランティアを
申請者	斡旋したり。あとは、子育て世代のママたちが、季刊情報誌ココカラという
申請者	情報誌を発行していたが、記事について、いま子どもたちがこんなものを求
申請者	めてるんじゃないかといった情報提供をいただいたりといったことがあり

ます。そして、地域の FM 局と共同で子育て応援しますのラジオ番組を、子育てママの方で企画して発信するというも行っています。あとは、旧母子推進委員が終了するという時に、引き続き子育て支援に携わりたい方を、育ちの森の保育ボランティアとして受け入れを行いました。結果ですが、ボランティアの方々、有償ボランティアで保育ボランティアをしてくれる方々が、地域で子育てしてるママに情報発信して下さったり、声を掛けて下さったりというところが、主に地域との関わりになります。2点目ですが、保護者の不安に関してです。よく最近聞かれるのが、自分の子どもを出産するまでは、小さなお子さんと接したことが無いという声がよく聞かれます。実際、自分の先輩たち、あとは自分の友達も子育てしているが、中々、友達同士だからこそ子育てが辛いとか、ここが分からないということを開けないということもありまして、自分の子育てに関しての不安、分からないことで不安になってというところでの相談が多いです。あとは、子育てをしているママの環境です。転勤等で新潟にお越しになって、中々聞ける機会がない、聞く場所がないということも聞かれます。パパも育児休暇をとられています、パパも帰りが遅くて、ママが育児をしているという声も多いです。そういったところから、保護者自身の分からないことへの不安が溜まっているのではないかと感じているところです。法人に関しては代表の方から伝えます。今まで育ちの森にアドバイザー制度といったものは、法人としてはなかったものです。今回、大きな場所で行うということと、年齢も上がってきて変化が非常に多いということですので、法人でもバックアップしていこうということで、育ちの森のアドバイザーということで、色々なところでサポートしていきます。そして事業体ですが、こちら初めてのことで、育ちの森をサポートしていきたいという方々を、自主事業の中でも集いまして、絵本の試し読みですとか様々なところで地域の方に入っただきまして、事業体を作っていまして、育ちの森をサポートしていくことをしていきます。NPO 法人として色んなネットワークがありますので、そういった方々のご協力もいただきながら、しっかりとサポートしていくことを考えています。

中野委員

丁寧な説明ありがとうございました。私、防犯活動をしていまして、防犯面が一番気になったんですけれども、育ちの森さんも健康センターさんも、経

申請者

営面、一番最初の言葉が安心、安全という言葉が使われていました。ですが、私、新しくできた施設を見てきましたけども、小さいお子さんがいらっしやると、日当たりのよさ等も大事だと思いますが、ガラス張りで外から結構丸見えですよ。カーテンを閉め切るというのも難しいと思いますし、女性スタッフが育ちの森は主に常駐するというお話でした。防犯カメラも今のところ設置する予定はないというお話でしたし、大阪の池田小学校の件もありましたので、本当に、不審者というよりは、普通の感じで入ってくる人が、実は犯罪者だったりする可能性もかなりあるんです。池田小学校の時も、保護者みたいな顔をして入ってきて先生方が普通に挨拶をして、教室に入って多くの多くの児童を殺傷したというような事件が起こらないとも限らないので、防犯体制をどのようにお考えなのかというのを1点お聞きしたいのと、コロナ後の話しになりますが、現在まだコロナ禍ということで感染対策というのがすごく課題だったと思います。ですが、明らかにコロナ後、コロナ前とは違う利用用途の方がいらっしやるかと思います。その辺のお話を聞かせていただけますでしょうか。

まず1点目の防犯対策ですが、今時点も防犯訓練を実施しております。新しい育ちの森で私どもが一番懸念しているのが、防犯対策です。防犯対策を今後も実施していく予定ではありますが、今の育ちの森で玄関に柵をつけているんですね。簡単に乗り越えられないような柵を移転する。あとは、玄関に必ず1人スタッフを張り付きで安全を見守る等を行い、あとは健康センターの運営者と連携をとって、いざという時に駆けつけていただけるような体制をとろうとは考えています。あとは、スタッフ1人1人がいざという時に発信できるホイッスルですとか、そういったものを持参する。お子さんを連れていない利用者に関しては、遠くからも見えますので、その段階で職員に周知をして体制を作る形を考えています。それから、コロナ禍での話ですが、明らかにコロナ禍になりまして、以前よりも、こちらの方も安心して遊んでいただけるように人数を絞ったりしていますが、個別の相談が増えております。相談したいんだけども、大勢いる中に行くのはちょっと勇気がいるとか、家族に止められているとか。そういった話もありますので、個別での相談対応、あとは電話での相談受付をして対応しているところで。あと、午前午後とも育ちの森はおもちゃをアルコール等で殺菌をして、

<p>大野委員</p>	<p>殺菌庫に入れるということで、そういった意味での衛生面に気を付けてコロナの対応をしています。</p>
<p>申請者</p>	<p>収支計画書合計の所の数字を見させてもらってるんですけども、2022年から2026年まで同じ数字が並んでるということで、これはホントに5年間の将来予測を見据えたところのホントの数字なのか、あるいはちょっと作文的なというか据え置きみたいところで数字になっているのかということで疑問に思いました。ご見解があれば教えていただければ。</p>
<p>司会</p>	<p>まず、根拠のない作文というものではなくて、あくまで初年度を想定した中での積算をしております。一番収支計画の中でポイントになってくるのが指定管理料を中心に策定していきますので、どうしても支出の部分に変化するわけではないというところで、同じような数字が並ぶ可能性が高いというところでご了承いただければと思います。</p>
<p>申請者</p>	<p>ありがとうございます。これにて終了させていただきます。</p> <p>【公開プレゼンテーション・ヒアリング】</p> <p>(申請者：ヴァーテックス・ワーカーズコープ地域創生事業体)</p> <p>それではヴァーテックス・ワーカーズコープ地域創生事業体のプレゼンテーションを始めさせていただきます。まず、冒頭に、当事業体よりご挨拶をさせていただきますと存じます。はじめに、ヴァーテックス代表取締役、秋葉区在住の帆苅学でございます。同じく風間潤でございます。続きましてワーカーズコープの川原隆哲でございます。同じく齋藤紀美子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まず、ヴァーテックスは秋葉区に隣接する江南区に本社を置き、創業30年目を迎える企業でございます。2019年に温浴施設やカルチャー教室の事業としてエンジョイライフクラブを開業。また、2012年より新潟市介護予防事業を受託するなど、新潟市様との関わりを深めてまいりました。今後も、行政と民間が一体となって新しい行政施策実現のため、秋葉区民に喜ばれる施設にしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。続きましてワーカーズコープです。私たちは働く人や市民がみんなで出資をし、責任を分かち合って人や地域に役立つ仕事を自分達の手で起こす、仕事起こしの協同組合です。地域の課題を住民が主体となって解決していくことを通じて、地域の活性化やまちづくりを目指しています。コロナ禍、またコロナ以降の社会を想像したときに、公共施</p>

設の役割は大きく変化すると考えております。地域の人たちにとって困ったときに頼りになる、子育て支援施設を目指していきたくと考えております。それではあらためまして、ご提出させていただきました事業計画のプレゼンテーションに移らせていただきます。こちらの画面をご覧ください。まず事業計画書の経営理念、経営方針でございます。当事業体の経営理念は、利用者、地域、当事業体の協同です。方針はこの3者が一体となり、そこに民間ならではのノウハウやネットワーク、全国組織の子育て支援ノウハウを付加することで、みんなで安心、安全、笑顔、元気の地方創生を実現したいと考えております。秋葉区地域福祉計画並びに地域活動計画への実現にも貢献できると確信しております。申請の動機につきましては、公共施設に民間事業者の創意工夫や機動性を活かし、妊婦から高齢の方々が気軽に集いあえるコミュニティの核を創生したいという強い気持ちで申請させていただきました。当事業体は、いずれも地元新潟に本社と事業所を構える企業でございます。ヴァーテックスは市内で会員制カルチャースクールや温浴施設の運営、小学校の跡地を利用した体育館の管理運営実績、市内高齢者への介護予防事業の受託、県外ではスポーツクラブも運営しております。また、ワーカーズコープは、官公庁の施設をはじめとし、子育て支援施設を全国約 500 カ所、市内においては 10 カ所の管理運営をさせていただいております。両者の強みを活かし、利用者のサービス向上に努めてまいります。私たち事業体は、今日現在、新潟市民 197 名を雇用しております。そのうち 21 名は秋葉区民です。この数字は決して少ない数字とは思っておりません。地元事業者という自覚をしっかりと持って、責任ある仕事をさせていただくことをお約束させていただきます。続きまして、施設の管理運営方針です。まずは、これまでの利用者の皆さんが、安心して継続利用していただくことを心がけていきます。施設の設置目的を踏まえ、健康センターと育ちの森の運営管理区分を行ったうえで、合同イベントを積極的に開催していきます。さらに、基礎的な管理業務の徹底と PDCA サイクルによる不断の見直しや改善を行い、健診など市の事業と連動したプログラムを安全に展開していきます。育ちの森では、虐待の予防と防止を喫緊の課題として、関係機関と連携をとりながら、迅速で手厚い支援を行っていきます。多くの施設運営の経験値を活かし、SOS をいち早くキャッチするアンテナを高めていきます。健

健康センターでは入浴施設の安全と衛生、ヒートショック対策や転倒防止対策、レジオネラ菌対策など安心して入浴できる環境作りと万が一の迅速な対応を行います。一般利用と専用利用、平等利用の確保につきましては、特にこれまでの利用者を優先的に考え、平等利用の確保に努めます。続きまして、利用の増加の取り組み、情報発信、広報です。広報の充実を図ります。地域住民の年齢層を鑑みた効果的な PR を展開していきます。独自の HP の新設、SNS、リーフレットの作成、回覧板や市報・区報との連携など、あらゆる年齢層に働きかける広報を行っていきます。利用者の来館を待つという施設ではなく、利用者が来館したくなるアプローチを積極的に行います。空室や空きスペースを活用した魅力的なプログラムを作成し、地域の先生や専門家など、地元の人材をフル活用させていただきます。また、中高生の学習スペースや居場所として3階の一部を開放します。具体的な取り組みとして、地域の方々をつなぐ育ちの森ニュースの発行、外出が困難な状況でも、親子が孤立しない手段として、手遊びのほか、子育て講座終了後の母親同士をつなぐリモート講座の開催をいたします。また、親子や子どもたちの普段の言葉を拾った育ちの森のつばやきノートの作成、健康センター・育ちの森祭り、こういった開催を行ってまいります。さらに入浴施設では、ポイントカードを発行してプレゼントを用意したり、26日風呂の日はかわり湯イベントを実施したりと、飽きの来ない取り組みを行います。利用者アンケートの実施やデータ分析によるマーケティング、運営会議の開催、障がいのある人もない人も利用しやすい施設づくりを行っていきます。5年間の数値目標はこちらです。5年で利用者を33,000人増やします。続きまして利用者サービスの提供です。利用者の利便性向上と入館時のコスト削減の一環として、このようなシステムを導入します。これにより利用者は入館時の書類記入の手間が省けます。私たちにとっては時間帯による年齢利用や性別の把握もでき、新型コロナウイルス感染症対策も同様です。健康センターでは様々な目的の利用促進のため、ポケットWi-Fiを無料で貸し出します。利用率をみて、新潟市様が提供するNiigata City Wi-Fiのご提案をさせていただきます。また、卓球台、複合機、転倒防止椅子の設置を行います。障がい者並びに地域団体の作品を飾ったり、感染予防対策も徹底したり、サービス向上を意識し運営します。育ちの森では広場対応、季節の行事などの定

例行事、保護者向けの子育て講座や子育て相談会、父親向け講座を実施するほか、マタニティセミナーの開催やプレママと先輩ママの交流会、NP 講座、BP1 講座を実施します。この講座のご説明につきましては、事業計画書をご確認ください。また、コロナ禍のなか、集まりづらいことを鑑み、リモートで子育て情報の発信を行い、参加しやすい環境を整えます。一時保育では、レスパイト保育の観点を大切にしながら運営します。続きまして、苦情や要望への対応についてです。地域の皆さんが施設に愛着を持ち、当事者として意見を出し合えるような場を確保し、運営に反映させていきます。要望に気付くための3つの視点、利用者目線の虫の目、行政目線の鳥の目、運営目線の魚の目を大事にします。苦情への対応としては、苦情を仕事の質を問い直す契機と捉え、成長のチャンスとします。特にこの5つのポイントを実践していきます。子どもに関わる苦情の対応にあたっては、まずは全ての子どもを尊重することを重視します。その上で子どもが失敗を学びに転じ、責任と相手の気持ちを理解する機会とします。保護者に対しては思いを汲み取りつつ、子どもたちにとって大切なことは何かを一緒に考え、解決できるように働きかけます。続きまして、予算の範囲内の適正な執行、管理経費削減の具体的な取り組みでございます。当事業体は市民のニーズを多面的に捉え、実現性のある計画の下で、予算を策定するとともに、指定管理料が市民の皆様の大切な税金であることを常に念頭に入れ、バリュー・フォー・マネーを強く意識して、適正に予算を執行いたします。そして、管理経費削減の具体的な取り組みです。管理経費削減の基本的な考え方は、ムリ・ムラ・ムダを省くことです。削減策は計画書にある通りでございますが、特に①マルチプレーヤーによる業務領域の拡大、②健康センター・育ちの森一体となった経費削減を意識して運営してまいります。さらにこれらを PDCA マネジメントサイクルで運用することにより、経費削減に努めてまいります。続いて自主事業の取り組みです。私たちの取り組みは一時的な利用増を狙うものではなく、これらの自主事業を契機とし、新たなサークルや団体が立ち上がり、当施設を拠点とした継続的な活動を生み出していくものと考えています。施設全体の具体的な取り組みをご覧ください。健康センター・育ちの森祭りといった地域と連携した魅力的なイベントの開催、ゆずります・ゆずってくださいコーナーの設置、フードバンク新潟と連携したフードバンクあきは

の設立、そしてボランティアバンクの設立、地元大学の事業紹介、薬の飲み方講座の開催を実施します。健康センターの具体的な取り組みです。このように様々な健康教室事業を行います。育ちの森の具体的な取り組みです。利用対象年齢に幅が出たことから、3歳児以上が遊べる環境作り、ベビーイベントの実施、子どもの健康教室、利用者同士をつなぐコーディネート、完璧な親なんていないを主題としたNPプログラム、BP1、BP2プログラムを実施します。BP2は第2子以上を出産した母親が参加するプログラムです。こちらは最新のベビープログラムということもあり、ファシリテーターは新潟市に数人しかおりませんが、当事業体には実施可能な人材がおりますことから、すぐに開催することができます。続きまして従事者の雇用・労働条件・人員配置です。人員体制はそれぞれ施設長を配置し、統括責任者は健康センターの施設長が兼務します。各施設長以外の職員は常勤4名、非常勤6名とし、合計12名で運営にあたります。当施設に占める女性の割合は50%以上とします。また、希望休日を申告したり、全員で調整しながら休みを取得したり、男女問わず介護休暇、育児休暇を取得したり、時短勤務がかなうなどワーク・ライフ・バランスの推進に努めます。シフトの考え方につきましては、利用者が安全で楽しく利用できるように、職員配置をしております。また、育ちの森では、近隣の保育園や小学校の時間割等を考慮して、児童の下校時間や休校に合わせて配置職員数を厚くするように勤務シフトを組み立ててまいります。実際のシフト並びに組織体制は事業計画書をご覧くださいませ。続きまして人材育成・業務改善の取り組みです。当事業体は、人の可能性や潜在能力に気付く力があります。人材育成では事業運営の主体者としての成長に最大の価値を置いています。自らの仕事を狭く限定せず、日々接する人たちの思いを受け止め、ニーズに応え、まちづくりに取り組み職員を育成します。入職時研修は1か月以内に実施します。年間研修計画は個人のスキルや状態に配慮しながら細やかに計画していきます。職員自らも計画、研修作りに参画いたします。日常業務の中で特に大切にしていることは、毎日のミーティングはもちろん、当日出勤していない職員にも情報を共有することです。業務ラインや連絡ノートを活用していきます。また、休館日を利用して毎月第1月曜日には健康センター・育ちの森の全職員が集まって、合同会議を行います。続きまして施設の安全管理・安全確保

の取り組みです。安全管理、防犯、防災の対応は、リスクを未然に防ぐ努力を最大限に行うことはもちろんのこと、いざという時に備え、各種マニュアルを整備して、時には法人を挙げてリスクの最小化に努めてまいります。事故発生後の対応と報告の流れです。まずは利用者の安全確保を第一優先するとともに、健康福祉課様をはじめとする関係機関との情報共有を迅速に行ってまいります。関係法令の遵守、個人情報保護法については、まず関係する法令、条例、ガイドラインを徹底し周知させます。その上で JISQ15001 に準拠したガイドラインの運用など利用者にとって安心、安全な環境を担保してまいります。続きまして緊急時の対応でございます。事故や災害はいつ起こるか分からないことを踏まえ、未然に防ぐための予防策、起こった場合の対応策が重要であると考えております。安全を確保するために各種危機管理マニュアルなどを策定し、消防本部、医療機関などの地域連携や自主的な防犯、災害対策組織を設置し、より実行力のあるものにします。また、全従業員に対し、AED を用いた普通救命救急の受講を義務付けます。入浴施設の衛生管理については、ご覧の通りこれまでの経験をしっかり活かして、確実に行ってまいります。新型コロナウイルス感染予防対策についても新潟市様のガイドラインを基本としつつ、我々のこれまでのノウハウを全て活かして万全を尽くしてまいります。続きまして地域経済振興及び雇用確保の取り組みです。秋葉区の様々な団体と連携し、地域活動を活性化するお手伝いをしてまいります。地元の商工会議所や商店街、地元の自治会、町内会や地域コミュニティ協議会、地元大学、小中高をはじめとした地域の学校、皆様と協力、連携することで地域一体となった活動が生まれ、地域経済振興、及び雇用確保が図られるというふうに考えています。ここで少し資料を戻してみます。当事業体の考え方である、人とゆるやかにつながりながら安心して暮らせる地域の創生、これは秋葉区の人がつながり共に支えあうやさしいまちづくりと合致をみるものです。少子高齢化、人と人とのつながりの希薄が進む現代、当施設の役割はますます重要であり、やるべきことは多様化していくと感じます。強いリーダーが地域をけん引する時代は終わりました。今こそ共にというキーワードを秋葉区新津健康センター・新津育ちの森の運営の中心に据え、地域の皆さん、行政の皆さんと協同して運営していきたいのです。この施設を、誰もが主体的に力を発揮できる場所、誰

<p>司会</p>	<p>にとってもやさしい地域の居場所にしていきます。是非その挑戦の機会をいただきますようよろしくお願いいたします。以上でプレゼンテーションを終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。それではヒアリングに移ります。</p> <p>【ヒアリング】</p>
<p>高橋委員</p>	<p>2点お聞きしたいんですけども、事前配布の資料の7ページ(8)に運営会議の実施とありますが、施設全体の運営に係るもので2回なのか、健康センター・育ちの森それぞれで開催することになるのか教えてください。もう1つが、15ページ(3)にボランティアバンクの設立とありますが、こちらにつきましても具体的に内容について教えていただければと思います。</p>
<p>申請者</p>	<p>それではお答えをさせていただきます。運営委員会につきましては、年2回を予定しておりますのは、我々運営母体、行政の方、地域の皆さん、有識者の方など、この地元の方をチームとして作成した委員会を年2回行っていきたいということです。そこで地域の方のご意見を賜って運営に活かしていきたいと考えています。よろしいでしょうか。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>はい。</p>
<p>申請者</p>	<p>それではボランティアバンクの設立のほうに移らせていただきます。私たちが運営をしていくなかで、育ちの森と健康センターと一緒に事業を行っていったり単独で行っていったりというようなことがあるんですけども、その中でやはり地域の方にも主体になっていただきたいということで、ボランティアの方を募っていきます。そしてそれをボランティアバンクというような言い方をしていますけれども、地域の方の人材バンクというような形で力を発揮していただきたいと思っています。その地域の方同士の交流も生まれることによって、地域の方同士の顔が見える関係が作り上げられるのではないかとというようなことも考えて、ボランティアバンクの設立を考えました。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>ありがとうございます。ボランティアさんの具体的な活動内容というのはどうゆう形のものなのでしょう。</p>
<p>申請者</p>	<p>事業によっても違うと思うんですけども、例えば育ちの森でやる場合は、講座終了後のママたちが、子育てコンシェルジュのようなボランティアになることも考えられますし、お祭りですと、楽しいイベントの、もちろん職員</p>

本間委員	<p>がお願いした分野を担っていただくというような形なんですけれども、ゲームのようなことでしたり、販売するようなことというようなお手伝いをしていただく、気軽に参加していただけるようなものを考えています。</p> <p>私の方から、いただいた資料の18ページのところなんですけれども、女性の雇用率50%以上というのがあるんですけども、業種とか色々会社さんによっても違うんですけども、けっこう高い目標があるなというのがあって、もし分かればなんですけども、現在の雇用率がどのくらいなのか、50%にするにあたっての目標の達成とか、達成するための取り組みとかがあるかどうかということと、あとは、そもそも女性社員が何割くらいいるのか。例えば8割くらいであれば高くてもというのもありますし。その辺をお聞かせいただければ。あとは、50%以上になるというのは運営にとってメリット、どこがいいのかということをお聞かせいただきたい。もう1点ですが、いただいた資料の積算内訳表で、人件費の所で教育研修費が若干途中から減るかたちになっているんですけども、6万から3万に減っていくんですけども、これを減らすことによって質の低下を防ぐために何か取り組みとかがあれば教えてください。</p>
申請者	<p>最初に女性の雇用率ですけれども、子育て電話というところがありまして、ほぼ95%くらいが女性という職場ではあります。健康センターにつきましては、50%を目指していくという形になっていくと思いますので、有に現状で50%は超えてしまうという状況ですね。それから女性が多いということになりますと、子育て経験者が子育ての現場を運営していくということで共感をしやすくなる、それから入浴施設には女湯もちろんありますので、そちらのサポートも出来るという風に考えています。細やかな気づきが出来るとは思わないかという風な思いも持っております。それでは研修費のことについてお答えいたします。研修費は、当初多く見積もっております。これはやはり始めるにあたって、かなり教育が必要だと。どういう風な形に運営していくか、それから何を大切にしていくかとゆうようなことを考えながら研修を組み立てていくというところで多くの研修費をとりました。徐々に少なくなっていくということは、職員が定着するということは前提として思っております。指定管理料は決まっておりますので、その中で賄っていくための措置というふうにお考え下さい。ただ、それについて研修をやらな</p>

	<p>いということではなくて、内部でやっていく、それからウェブを活用する、新潟市の研修に参加するというを考えています。</p>
<p>本間委員</p>	<p>ありがとうございました。最初の育成の部分でかかるところが先にあるんで高いということですね。</p>
<p>申請者</p>	<p>そうです。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>適正な予算範囲内での執行が行われているかどうかということで、毎年年度末には施設運営委員会による監査を実施しますと書かれているんですけども、施設運営委員会はこういった方がその中に任用されるようになるのでしょうか。</p>
<p>申請者</p>	<p>施設運営委員会には、今回共同体で出させていただいてますけれども、共同体の本部のような役割を担っておりまして、常に現場にいるメンバーとは別な、各法人の組織体で形成されてまして、そこの総務や責任者のメンバーが来て、打合せをしたり、監査をしたりするというような感じになっております。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>外部の方を就任させるということではない。</p>
<p>申請者</p>	<p>そのようには考えておりません。</p>
<p>小池委員</p>	<p>1点聞かせてください。いただいている資料の19ページに健康センターと育ちの森職員一覧があるんですが、双方に資格等というところに社会福祉士が入っています。両方ともに社会福祉士を想定されてるといふか、選択肢として挙げられてる理由についてお聞かせください。</p>
<p>申請者</p>	<p>子育てに関する分野で申し上げますと、福祉の視点は非常に大切だという風に思います。虐待、それから防止、予防なんですけれども、ちょっと外からというか一見して分かりにくいところに気付いていくというところが、ある意味スキルが必要なのかなという風に思っています。それから健康センターの方で申し上げますと、高齢者が多いと思います。やはり高齢者の中にも元気に見える方でも、そうではないというような、見守りが必要な方も見受けられるという風に考えますので、こういった人材を配置して、安全に運営していきたいと思っております。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。これにて終了いたします。</p> <p>傍聴の皆様も以上で公開部分は終了となりますので、ご退室をお願いいたします。本日の結果は、準備が整い次第、新潟市ホームページに掲載させて</p>

いただきます。

【非公開】

委員採点・意見交換

【非公開】

採点結果の集計

終了